

令和4年度 専門学校山梨県立農林大学校 評価シート(学校評価の結果)

重点目標	○農業及び林業への就業に向けた幅広い人材の確保と育成 ○農林業に興味のある者に対する円滑な就業・定着の推進 ○新たに開設した森林学科の円滑な運営
------	--

評価基準(達成度)	
4	適切 評価指標の8割以上達成
3	ほぼ適切 評価指標の6割以上達成
2	やや不適切 評価指標の5割以上達成
1	不適切 評価指標の達成5割未満

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言	
					経過・達成実績	達成度		
1	専門学校農林大学校として幅広い人材の確保	将来の本県の農林業の担い手育成に向け、農林業を志す高校生等に対して農林大学校のPRを行い、幅広い多くの人材を確保する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>入試の志願者数</li> <li>入学案内等の作成、配布</li> <li>高校等への訪問箇所数</li> <li>情報発信したメディア数とPR効果の把握等</li> <li>学校説明会等の開催回数と参加人数</li> <li>高校の進路相談会への参加回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①入学者数の確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>志願者(推薦入試及び一般前期・後期入試の志願者数) 養成科 果樹・園芸33人以上 森林11人以上 専攻科3人以上</li> </ul> </li> <li>②農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布                             <ul style="list-style-type: none"> <li>県内、県外高校への配布</li> </ul> </li> <li>③高等学校等訪問の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>県内高校、農業関連機関などへの訪問箇所数 延べ100箇所以上</li> <li>県外高校、林業関係機関・団体への訪問箇所数 延べ30箇所以上</li> </ul> </li> <li>④ホームページ等での情報発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>HP、新聞、ラジオ、同窓会だよりなどメディア(民間の進学情報、SNS、YouTube等)を活用し広報する。</li> <li>情報発信したメディア数 5以上</li> <li>メディアによるPR効果の把握</li> <li>森林学科紹介動画のHP掲載、高校への電子記録媒体配布 動画再生回数 1,000回以上</li> </ul> </li> <li>⑤学校説明会等の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>5回(長坂キャンパス 2回、富士川キャンパス 2回、合同 1回)</li> <li>延べ120人以上参加</li> <li>オンラインによる説明会の実施 1回以上</li> </ul> </li> <li>体験学習(長坂:高校生あぐり体験 富士川:林業体験学習)                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>5回(高校生あぐり体験 3回、林業体験学習 2回)</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>⑥高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介                             <ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談会への参加(オンライン含む) 6回以上</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">指標:上記12項目の達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①入学者数の確保                             <ul style="list-style-type: none"> <li>志願者(推薦入試及び一般前期・後期入試の志願者数) 養成科 果樹・園芸33人 森林12人 専攻科2人</li> <li>参考:合格者(推薦入試及び一般前期・後期入試の合格者数) 養成科 果樹・園芸30人 森林10人 専攻科2人 ※補欠合格除く</li> </ul> </li> <li>②農林大学校入学案内・ポスターの作成、配布                             <ul style="list-style-type: none"> <li>入学案内・ポスター作成と高校への配布 県内47校、県外17校</li> </ul> </li> <li>③高等学校等訪問の実施                             <ul style="list-style-type: none"> <li>県内高校、農業関連機関などへの訪問 延べ124箇所</li> <li>県内高校延べ93箇所 関連機関延べ31箇所</li> <li>県外高校、林業関連機関・団体への訪問 延べ23箇所</li> <li>県外高校延べ8箇所 林業関連機関・団体延べ15箇所</li> </ul> </li> <li>④ホームページ等での情報発信                             <ul style="list-style-type: none"> <li>情報発信したメディア 14箇所</li> <li>ホームページ、スタディアプリ、農業をはじめ.jp、マイナビ農業、山日キャンパスホットナビ、YBSラジオ農事メモ、NHK Newsかいドキ、山梨日日新聞(3回)、全国農業新聞、YBSラジオラララ♪モーニング、YBS前進!やまなし、ParuPiただいま8月号、よしもと山梨動画応援隊、UTYニュース・スゴろく</li> <li>メディアによるPR効果の把握については、インターネット(HP)を見ての高校生あぐりへの参加は、高校生37%2位(1位は学校先生の進め39%)、保護者60%1位(高校生あぐり出席学生の入学志願者割合77%)</li> <li>森林学科紹介動画の再生回数 R4・7月~R5・2月 40,171回</li> </ul> </li> <li>⑤学校説明会等の開催                             <ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>学校説明会の回数(長坂2回、富士川2回、合同1回) 5回</li> <li>説明会への参加(長坂延べ119人、富士川延べ37人) 延べ156人</li> <li>オンラインによる説明会(長坂2回、富士川2回) 4回</li> </ul> </li> <li>体験学習                                     <ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習の開催回数(長坂3回、富士川2回) 5回</li> </ul> </li> </ul> </li> <li>⑥高校や民間が主催する進路相談会での学校紹介                             <ul style="list-style-type: none"> <li>進路相談会への参加(全て対面) 12回</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">(12項目中10項目達成:達成度4)</p>	4	高校の林業関係学科への進学希望者が減少しているなか、農林大学校への進学希望者を確保するため、SNSにより学校のPRを始める他、体験型の学校説明会の充実を図る。	○「メディアによるPR効果の把握」という評価指標は曖昧。次年度に同様の指標を立てるなら、数値目標化すべき。 ○県内11森林組合では、毎年度総代会を開催しているの、そこで学校説明、ポスターセッションを開催し、組合員の子息や孫の勧誘を行ったらどうか。 ○SNSでのPRを期待している。 ○テレビの力は強いですが、県の広報などでメディアに協力をお願いできたらいいですね。 ○一般県民に森林学科の存在を知って貰い、安定的な入校生の確保に努めて欲しい。

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	
2	農林業系高校との教育交流の推進	農林業系高校と農林大との連携による専門教育を推進するとともに、教員や学生の交流を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校へ興味を持った生徒の割合</li> <li>PR資料の作成と配布</li> <li>林業系の交流内容の決定</li> <li>高校生への授業回数等</li> <li>プロジェクト発表会への相互交流参加人数</li> <li>教職員・学生の交流回数</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育交流により本校に興味を持った生徒割合 75%以上</li> <li>中学生へのPRパンフ作成・配布 8,000部</li> <li>ワーキングチーム（林業系）による交流内容の検討 交流内容の決定</li> </ul> </li> <li>②本校職員による高校生に対する授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>出前での講義（WEB含む）、ゼミ、実習の実施回数 15回</li> <li>農林業系高校の本校での実習（森林学科の試行実施含む） 2校</li> <li>現地視察研修 3回</li> </ul> </li> <li>③プロジェクト発表での相互交流（WEB参加含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 20人</li> </ul> </li> <li>④教職員・学生の交流（WEB参加含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の合同研修 1回</li> <li>学生交流の実施 7回</li> </ul> </li> </ul> <p>指標：上記9項目の達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①連携推進会議、連絡会議の開催による連携強化 <ul style="list-style-type: none"> <li>教育交流により本校に興味を持った生徒割合（230/312人）74%</li> <li>中学生へのPRパンフ作成・配布 作成・配布6,900部</li> <li>農林業に興味を持ってもらえるよう高校3年間と農林大2年間の継続性ある専門性の高い学習ができることをPR</li> <li>ワーキングチーム（林業系）による交流内容を決定し、試行実施 森林学科での高性能林業機械オペレーション体験に農林高校生が20人参加（10/27）</li> </ul> </li> <li>②本校職員による高校生に対する授業の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>出前での講義（WEB含む）と新たにゼミ方式や実習を実施 15回</li> <li>講義9回（WEB無し）、ゼミ1回、実習5回</li> <li>本校での実習を北杜高校、農林高校が実施 2校</li> <li>新たに現地視察研修を実施 3回</li> <li>NXアグリグロウ（6/10）、ふみしゅり（7/8）、内田洋ラン（9/30）</li> </ul> </li> <li>③プロジェクト発表での相互交流（WEB参加含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>プロジェクト発表会への高校職員・生徒の参加 6人</li> <li>本校へ農林高校生が6人参加（12/15）関東ブロック発表会との調整の結果日程変更したため参加者減少。本校から高校側への参加は大雪のため参加できず（2/10）</li> </ul> </li> <li>④教職員・学生の交流（WEB参加含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>教職員を対象に合同研修開催 2回</li> <li>ICTの活用（1/25）、ドローンの活用と実演（2/22）</li> <li>学生交流の実施 3回</li> <li>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため各学園祭での交流中止</li> </ul> </li> </ul> <p>（9項目中5項目達成：達成度2）</p> <p>↓</p> <p>外部評価委員の意見を踏まえ、④の教職員・学生の交流の内、「学生交流の実施」で計画していた7回の内4回は学園祭での交流のため実施は困難と判断し、3回を実施可能と整理。</p> <p>これにより9項目中6項目達成となり、達成度は3。</p>	2 ↓ 3	<p>義務教育の生徒に対し、農林業に興味をもってもらえるようPRパンフの内容を更にわかりやすく改定し、小中学生に配布する。</p> <p>○林業系ワーキングチームでは指標の交流内容決定から実績では試行まで行っている。また、新たな交流方法の模索も含め、全体の評価は3で良いのでは。</p> <p>○コロナ感染症の拡大による影響で交流会が持てなかったことや天候により交流参加ができなかったのはしょうがないこと。しかしながらコロナ感染症も3年が経過する中で、WEB参加等の働きかけを行ったものも高校生の参加が少なかったことの原因分析は必要と思う。</p> <p>○評価を3に修正しては。農業高校は林業等に関する興味や意識は高いと思うので出前講座等の交流は進めて欲しい。</p> <p>○プロジェクト発表での相互交流など人数や回数が減ったのは、大雪やコロナ感染拡大防止のためであり、やむを得ない事情があったと思う。</p> <p>○学生交流「新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため各学園祭での交流中止」については、外的な環境要因であり学校側でやりたくてもできなかった部分が大きい。この場合は分母を減じて校内で再調整してもよい。</p>

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価		外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	
3	実践教育の充実と学生の技能・知識の向上	実践的な教育を進め、専門学校として特色ある学校づくりを推進する。また、学生の技能・知識の向上を図り、進路決定に向け支援を充実する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農及び就職率</li> <li>・研修受入れ農家の評価</li> <li>・プロジェクト発表会の評価割合</li> <li>・学生の進路決定率</li> <li>・学生の理解</li> <li>・免許・資格の取得数</li> <li>・連携した大学数</li> <li>・ワーキングチームの検討結果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生の就農・農林業関連企業等への就職支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の就農(自営+雇用就農)+JA等への就職率 50%以上(1月末まで)</li> </ul> </li> <li>②農場実習や先進農業派遣研修等の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合 90%以上</li> </ul> </li> <li>③プロジェクト研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト研究等の発表会におけるA評価の割合 80%以上</li> </ul> </li> <li>④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導、農業参入した企業の協議会(北杜市)との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の進路決定率 90%以上</li> </ul> </li> <li>⑤有機農業・先端技術講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業・6次産業化・先端技術への関心と理解が高まった学生の割合 90%以上</li> </ul> </li> <li>⑥農業基礎技能競技会の実施、及び農業技術検定等資格取得に向けた特別講義の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許・資格の平均取得数 4種以上</li> </ul> </li> <li>⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施校数 2校以上</li> </ul> </li> <li>⑧森林組合や林業事業体を交えたワーキングチームによる派遣実習等の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキング会議 2回以上</li> <li>・インターンシップ受け入れ先の決定 80%以上</li> </ul> </li> </ul> <p>指標：上記9項目の達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学生の就農・農林業関連企業等への就職支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末までの就農や雇用就農、JA等への就職率 77.1%</li> </ul> </li> <li>②農場実習や先進農業派遣研修等の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進農業派遣研修受入れ農家の学生に対する「よい・ふつう」の評価割合 96%</li> </ul> </li> <li>③プロジェクト研究の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト研究等の発表会におけるA評価の割合 85% A評価17課題/全20課題</li> </ul> </li> <li>④企業ガイダンスの実施、就職セミナー等への参加指導、農業参入した企業の協議会(北杜市)との連携 <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の進路決定率(1月末) 94.3% 企業ガイダンスや農業参入した企業の協議会(北杜市)との連携については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため中止し、就職セミナー等への参加指導や個別相談等を適宜実施</li> </ul> </li> <li>⑤有機農業・先端技術講座の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・有機農業・先端技術講座の実施により、有機農業・6次産業化・先端技術への関心と理解が高まった割合 95.8%</li> </ul> </li> <li>⑥農業基礎技能競技会の実施、及び農業技術検定等資格取得に向けた特別講義の開催 <ul style="list-style-type: none"> <li>・免許・資格の平均取得数 4.7種 果樹・園芸学科延べ127種/27人</li> </ul> </li> <li>⑦県内大学との連携による特別講義・実習の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内大学との連携による特別講義・実習の実施校数 2校 山梨大学ワイン科学センター研修(5/15)、山梨学院大学マーケティング特別講義(4/25、5/9、5/16)</li> </ul> </li> <li>⑧森林組合や林業事業体を交えたワーキングチームによる派遣実習等の内容検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林組合や林業事業体を交えたワーキングチームによる派遣実習等のワーキング会議 4回 森林組合連合会(12/13、2/1)、森林協会(2/2)、森林整備生産事業協同組合(2/1)</li> <li>・インターンシップ受け入れ先の決定割合 100% 森林組合や林業経営体では養成科1年9人が令和5年度の2年時に行うインターンシップの受入について了承</li> </ul> </li> </ul> <p>(9項目中9項目達成：達成度4)</p>	4	<p>森林学科の学生が2年となり、初めて卒業を迎える年度となるため、森林組合や林業経営体などへの就職を確実に進める</p> <p>○森林学科の学生が、いよいよ来年3月に卒業し、社会に巣立つこととなるが、離職防止のために、インターンシップを通して、学生にとっても、企業にとっても良い出会いとなることを望む。</p> <p>○次年度には森林学科の2年の就職を確実に進めてほしい。</p>

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	内部評価			外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	
4	農業や林業に興味のある者に対する理解促進と円滑な就業・定着の推進	実践的な農業体験の場の提供と、関係機関との連携による即戦力となる人材の育成により、就業定着を進める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就農相談会等への職員の参加回数</li> <li>・就農トレーニング塾の受講者数とアンケートでの満足度割合</li> <li>・職業訓練者数</li> <li>・体験ツアー等への参加希望者数とアンケートでの満足度割合</li> <li>・農業分野への職業希望率と研修継続率、アンケートでの満足度割合</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就農フェアや就業相談会等への職員の参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の就農相談会への参加 2回以上</li> <li>・県内外の林業への就業相談会への参加 4回以上 ※)WEB対応を含む</li> <li>・電話などで参加できなかった方への就農相談の実施</li> </ul> </li> <li>②就農トレーニング塾(週末10日コース・平日コース)の実施、職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農トレーニング塾の受講者数 65名以上</li> <li>・就農トレーニング塾の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上</li> <li>・職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 50人以上</li> </ul> </li> <li>③森林・林業体験ツアーとインターンシップの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験ツアーとインターンシップへの参加希望者数 40名以上</li> <li>・体験ツアーとインターンシップの受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上</li> </ul> </li> <li>④職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率の合計 80%以上</li> <li>・訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 8割以上</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">指標：上記10項目の達成</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①就農フェアや就業相談会等への職員の参加 <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外の就農相談会への参加 2回 対面2回 甲府(8/28)、甲府(12/17)</li> <li>・県内外の林業への就業相談会への参加 2回 対面2回 東京(10/22)、甲府(10/30)、WEB0回</li> <li>・電話などで参加できなかった方への就業相談の実施 25回</li> </ul> </li> <li>②就農トレーニング塾(週末10日コース・平日コース)の実施、職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 <ul style="list-style-type: none"> <li>・就農トレーニング塾の受講者数 69名</li> <li>・週末10日コースはブドウ15人、モモ10人、野菜10人、有機農業7人、平日1日コースは果樹17人、野菜10人</li> <li>・就農トレーニング塾の受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合(61人/69人) 88%</li> <li>・職業訓練農業科(果樹・野菜・有機農業コース)の開設 52人</li> <li>・果樹コース29人(修了28人)、野菜コース23人(修了19人)</li> </ul> </li> <li>③森林・林業体験ツアーとインターンシップの実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林・林業体験ツアー(8/4)への参加者数(8人)とインターンシップへの参加者数(12人) 20人</li> <li>・森林・林業体験ツアーとインターンシップの受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合 100%</li> </ul> </li> <li>④職業訓練農業科訓練生の円滑な就業に向けた農業振興公社、農務事務所担当者との情報交換の実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>・職業訓練農業科訓練生の農業分野への就業希望率と研修継続率の合計(48人/52人) 92%</li> <li>・訓練受講者へのアンケートで「おおむね満足」以上の割合(44人/47人) 94%</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: center;">(10項目中8項目達成：達成度4)</p>	4	<p>就農に向けた研修の入り口として重要な就農トレーニング塾の週末10日コースを希望するものが多いため、就農トレーニング塾の週末10日コースの受け入れを拡充する</p> <p>○表題に「インターンシップの実施」とあるが、指標にも実績にもインターンシップに関する記述がない。</p> <p>○森林・林業体験ツアー等への参加希望者が少ないため、積極的なPRを行って欲しい。</p>	

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	回		外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度	
5	農林業の発展に向けた研修の充実	農林業の経営力を強化する一つの方法として、6次産業化のプロセスを座学と演習により実践力を習得するほか、経営分析や事業プランの作成を行う。農林業者の農林業機械の基本操作の習得、安全利用に関する知識を習得する。	・開催回数と現地研修箇所数 ・研修の開催回数、受講者数 ・加工品の開発と販売	①有機農業及び先端技術特別講座の実施 ・農業の先端技術特別講座の開催 3回 ・有機農業等の現地研修の実施 2箇所  ②農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・農業機械研修の開催 9回 ・農業機械の運転操作技術向上に関わる研修受講者 50名以上  ③専攻科のアグリビジネス論による6次産業化の実際を演習 ・加工商品の開発と商品販売の実施  ④林業経営体等を対象とした林業研修の実施 ・現場管理責任者育成研修の開催 1回 ・林業架線作業主任者免許講習の開催 1回 ・林業経営体経営力向上研修の開催 2回  指標：上記8項目の達成	①有機農業及び先端技術特別講座の実施 ・農業の先端技術特別講座の開催 3回 スマート農業・スマート林業(7/25)、ICTの活用(1/25)、ドローンの活用と実演(2/22) ・有機農業等の現地研修の実施 2箇所 有機JAS野菜の生産と加工販売、大規模施設野菜栽培でのAS I A G A Pの取組(11/18)  ②農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の実施 ・農業者、農業指導者を対象とした農業機械研修の開催 9回 ・農業機械の運転操作技術向上に関わる研修受講者 132名 トラクター単体3回45名、トラクター牽引1回8名、小型バックホー3回70名、トラクター作業機1回4名、農機安全利用・整備1回5名  ③専攻科のアグリビジネス論による6次産業化の実際を演習 ・専攻科のアグリビジネス論によるロゴマークの改正、加工商品の開発とレシピの作成、パッケージの刷新と商品販売を実施  ④林業経営体等を対象とした林業研修の実施 ・林業経営体の現場管理責任者育成研修の開催(1回2名) 1回 ・林業架線作業主任者免許講習の開催(1回8名) 1回 ・林業経営体経営力向上研修の開催(2回8名) 2回  (8項目中8項目達成：達成度4)	4	スマート農業に関する開発などの取り組みの現状把握が不足しているため、国や民間、県が取り組んでいるスマート農業の実際について視察や体験実習を実施する。  ○農林業において機械化の導入は不可欠。一方で農作業事故も毎年発生している。安全対策をしっかりと習得する機会を確保して欲しい。  ○高性能林業機械やスマート林業は、機械化が遅れた旧態依然の森林・林業界におけるゲームチェンジャーになるので、その面での研修は特に重点を置いて欲しい。  ○学生を受け入れる森林・林業界向けに、「受け入れる心得研修」を開催し、採用する側は受講を必須とすることで、受け入れ側の人材採用に対する考えを高め、底上げを図って欲しい。

課題番号	課題	目標	評価項目	具体的方策・評価指標	回		外部評価委員会の意見・提言
					経過・達成実績	達成度 次年度の課題と改善策	
6	森林学科の円滑な運営	森林学科の学習環境、及び授業内容の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士川キャンパスの学習環境の充実</li> <li>・長坂-富士川キャンパスの授業連携環境の充実</li> </ul>	※) 林業振興課と連携して実施 ① 森林総合研究所における富士川キャンパスの教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林学科教育カリキュラムの計画的実施 計画どおりの授業実施率90%以上</li> <li>・カリキュラム編成の課題等の検討</li> <li>・学習環境の改善</li> <li>・2年生担当講師等の確保</li> </ul> ② 長坂キャンパスと富士川キャンパスとの授業連携環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・共通科目授業におけるリモート環境の整備・改善</li> <li>・オンラインを活用した授業の実施</li> </ul> 指標：上記6項目の達成	① 森林総合研究所における富士川キャンパスの教育環境の充実 <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林学科教育カリキュラムの計画的実施 計画どおりの授業実施率 100%</li> <li>・カリキュラム編成の検討課題数 10件 講義について外部講師へ依頼(4件)、研修場所の変更(2件)、時間割の変更(2件)、効果的な実習機材の導入(2件)</li> <li>・学習環境の改善 2箇所 教室内壁の防音工事、実習資材収納倉庫の設置</li> <li>・2年生担当講師等の確保 全教科確保</li> </ul> ② 長坂キャンパスと富士川キャンパスとの授業連携環境の整備 <ul style="list-style-type: none"> <li>・長坂キャンパスと富士川キャンパスとの共通科目授業におけるリモート教室や機器などの整備により途切れのないオンライン授業を実現</li> <li>・オンラインを活用した授業の実施 17回 化学3回(6/16、6/21、6/28)、社会学4回(7/8、7/15、7/29、8/5)、農林連携3回(7/25、12/21、1/27)、生物5回(1/11、1/24、2/2、2/6、2/9)、関東大会プロジェクト発表会2日(開催校 1/18~19)</li> </ul> (6項目中6項目達成：達成度4)	4	○一般県民でも知るネームバリューのある講師を招いた授業や講義を行い、マスコミに取り上げられることも必要かと思う。  ○目標は全て達成されており、評価できる。オンラインを活用した授業の実施を更に進めてほしい。  ○関係各所のニーズを反映した森林学科の教務を実施し、学科の信頼を高めていっていただければと思います。